

鎌ヶ谷市男女共同参画計画策定委員会
令和2年度第1回会議録

日 時 令和2年10月13日(火) 10:00～12:05
場 所 鎌ヶ谷市役所6階 第1・第2委員会室
出席委員 内海崎貴子委員、上田智子委員、藤本勲委員、渡辺善彦委員、
森田和雄委員、鈴木和子委員、平田真裕美委員
欠席委員 芹澤佐知子委員、佐川幸江委員、太田直美委員
事務局 後藤市民活動推進課長、小林男女共同参画室長、藤嶋補佐、
萩原主査補、山崎プロジェクトマネージャー
傍聴者数 0名

会議内容

- 1 開会 小林男女共同参画室長
- 2 会長挨拶 内海崎鎌ヶ谷市男女共同参画計画策定委員会会長
- 3 会議録署名人の選出
名簿順により鈴木委員と平田委員を選出
- 4 議題
(1) 第3次鎌ヶ谷市男女共同参画計画(案)について
(事務局)
計画案の概要について説明。
(会長)
ご意見をいただきたい。
(委員)
58、59ページの目標値の設定について伺いたい。
(事務局)
基本的に具体的な数値を記載しているところは、ほかの計画で定めている目標値に合わせている。例えば、女性管理職比率や子育て休暇、男性職員の育児休暇などは、鎌ヶ谷市特定事業主行動計画の目標値である。なお、市が直接コントロールできる指標は、市が数値目標を設定し、コントロールできないものについては具体的な数値目標の設定が難しいため、「増加」と表記している。
(委員)
小数点第1位まで示している目標値があるが、細かすぎて一般の人にわかりにくいのではないかと。

(委員)

国や県の目標値の表記との整合性を考えた方がよいと思う。

(事務局)

例えば、指標3の59.6パーセントと指標10の86.6パーセントは、実績に基づく増加率を踏まえて計算したものである。

(会長)

事務局の原案を尊重することとし、小数点第1位までの目標値を示しているものについては、積算根拠の説明を付けるなど工夫されたい。

(事務局)

承知した。

(事務局)

計画(案)の第1章と第2章について説明。

なお、6ページの人口の推移については、10月に最新のデータが得られるので、令和8年までの人口推移を反映させたグラフと表記に修正する予定である。

(会長)

第1章についてご意見をいただきたい。

(委員)

6ページの3(1)の記載で「年少人口及び生産年齢人口は年々減少しており」と「令和6年に総人口が減少する見込みとなっている」の表記はグラフの内容と一致していないので修正されたい。

11ページの相談件数が横ばいで増えておらず、成果が見えないと思う。

(会長)

相談については、相談件数の推移に対する分析や今後の対応に触れるなど、鎌ヶ谷市がこれまでどのような取組をしてきたかを示してもよいと思う。

(事務局)

承知した。

(委員)

8ページの(1)市の女性管理職比率の表では、平成28年度以降減少しているにも関わらず、「県内では1位」とか「管理職を積極的に登用しています」との表現に違和感がある。「職員の男女比は変化しているものの常に女性管理職の割合が20パーセントを超えるよう努力をしている。その結果として県内の市で1位を保っている。」などとした方がよい。

(委員)

数値は減少しても県内の市と比べて1位ということは変わらないわけで、採用時に女性が少なかったとか、現状の男女比率を書くとかすれば、わかりやすくなると思う。

(事務局)

承知した。

(委員)

12ページの(2)でアンケート結果の記載があるが、アンケート結果を21、22ページにある計画体系の中に見えるようにできないか。

(事務局)

15ページの「策定の検討過程」の図にアンケート結果を反映させることを明記していること、また、計画体系図の中にアンケート結果を併記している例がありません。そのため、アンケート結果の内容を盛り込むことは考えていない。

(会長)

計画体系は全体を見渡せるものなので、計画策定のために行った個々のアンケート結果まで体系図に盛り込むと見えにくくなってしまいます。アンケート結果については、25ページなど具体的に「施策の基本的方向」に入れ込み、更に細かな施策に活かしてあるため、計画体系に盛り込むことは避けたいという事務局の考えでよいと思う。

(委員)

完成した計画書はどこに配布し活用されるのか。立派な計画が出来ても、あまり市民の目に留まらないだろう。より多くの市民に見てもらえるような周知方法を考えられないか。

(委員)

今日配られた中に概要版があり、こちらにはアンケート結果もしっかり掲載されている。

(事務局)

この計画書は、今後、パブリックコメント等を経て発行していくことになるが、発行の際は、各公共施設に配架したり、市の広報に掲載し、周知していく。また、計画の概要版について、自治会回覧で市民に見てもらえる機会も検討したい。

(会長)

第2章についてご意見を伺いたい。

～一同意見なし～

(事務局)

計画(案)の第3章について説明。

(会長)

ご意見をいただきたい。

(会長)

45ページにある新規事業の特定事業主行動計画、障がい者活躍推進計画、一般事業主行動計画について、用語説明がない。男女共同参画に係る大事な取組であるので、一般の方にもわかるようにする必要がある。

(事務局)

承知した。

(委員)

37ページの審議会等の女性委員比率について、6年後の目標値として35パーセントは低いのではないか。

(事務局)

上位計画の鎌ヶ谷市総合基本計画と整合を図り、現実的で実行性の高い目標値として35パーセントとしている。

(委員)

41ページの事業ナンバー24「家族経営協定の普及促進」がこの計画に位置付けられている理由がよくわからない。

(事務局)

農家の実態は、経営というより夫婦で農業をやっている農家がほとんどである。畑仕事は夫婦でやり、家事はほとんど妻がやるという状況にある。女性が農作業に加えて家事・育児も担うのではなく、男女が農作業も家事・育児も共に担う男女共同参画を進めることで、農業の安定継続を図っていく狙いもあり、この計画に位置付けている。

(会長)

農業分野では農家の女性が農業も家事・育児も担っているが、女性が評価されない現状にあり、それを改善し、農業経営という観点から農業分野の男女共同参画を進めようという施策である。

(委員)

新規事業ナンバー51の男性のための相談について、県の事業の広報となっているが市として相談の実施は難しいのか。アンケート結果では、男性のDV被害経験も少なくない。

(会長)

他市の実施状況はどうか。

(事務局)

全くないわけではないが、県内の実施自治体は少ない。鎌ヶ谷市における男性からの相談は、年に1件、2件あるかないかであり、費用対効果を考えると男性相談を鎌ヶ谷市が実施することは今のところ難しい。

(会長)

男性からの相談があった時に、適切な相談機関につなげることができているのか。

(事務局)

県等の相談機関を紹介するなど適切に対応している。

(会長)

市による男性相談の実施は難しいとのことなので、男性からの相談があった

時に適切な窓口につなぐことで対応いただきたい。

(事務局)

承知した。

(委員)

51 ページにあるアンケート結果のDV被害経験について、70歳以上の女性の無回答が31.1パーセントという数字は異常に思える。程度の問題だが、暴力があっても命にかかわるほどではなく、自分さえ我慢すれば家族が壊れないから黙っていたほうがよいと思っているのかもしれない。

(会長)

高齢女性は回答できない状況にあったのかもしれない。被害女性が家庭内暴力を抑えられないという無力感であったり、無回答の背景には暴力があったとしてもそれがDVだと認識できない女性もいる。今後、この計画を進めていく中で、そのような高齢女性への対応など、事務局で検討していただきたい。

(事務局)

承知した。

(委員)

54 ページの事業ナンバー61「地域防災計画への女性の参画」について、男女共同参画だけでなく多様性という視点が入っているとよい。

(会長)

多様性という外国人や障がい者、高齢者等がある。男女共同参画の視点のみならず、多様性ということ盛り込めないかという意見である。

(委員)

外国人に関しては避難所運営やどこに避難するか以前の問題がある。昨今の新型コロナウイルスの情報にしても鎌ヶ谷で何が起きているのか外国人は全くわからないという状況にあるので、緊急時の情報のあり方についても多様な人々に対応するということを考えていただきたい。

(委員)

自治会では地区別に年1回防災訓練があり担当の組織表を作成しているが、女性の役割が限定されてしまい、組織表に平等に組み入れるのは難しい状況である。

(会長)

この計画を踏まえて、今後、組織表をどうしていくかということを検討することでご理解いただきたい。

(事務局)

この点については、今後、防災の担当課と調整したい。

(事務局)

計画(案)の第4章について説明。

(会長)

ご意見をいただきたい。

～一同意見なし～

(事務局)

計画（案）の資料編について説明。

(委員)

情報発信力の強化として、今後、SNSに力を入れていくことは評価できる。一方で、情報機器に疎い高齢者は情報から取り残されかねないので、世代に合った情報発信という視点を十分に踏まえていただきたい。

(事務局)

承知した。

(会長)

最後に全体を通してご意見をいただきたい。

(委員)

金沢市男女共同参画計画概要版について情報提供したい。配布したコピーは、金沢市の概要版だが、目標値に担当課名も記載されており、目標値に対する責任の所在が明確で、市民にもわかりやすい。鎌ヶ谷市の概要版にも活かせないか参考にして欲しい。

(事務局)

持ちかえり検討したい。

(委員)

この時期に発行する計画は、新型コロナウイルスに関して触れる必要があるのではないかと考える。また、以前の会議で話題に出たワンストップセンターについても盛り込むべきと考える。

(会長)

現状を見ると新型コロナウイルスの影響が大きい。対応として、例えば計画書の「はじめに」のところのあいさつ文の中でこの時期に計画を策定する意味や意義に触れるかを考えていただく。また、ワンストップセンターの設置については国でも進めているので、53ページの事業ナンバー58の概要にある「研究を進める」という表記からもう一步進めて、「設置に向けて検討を始める」とかの表記できるのか、事務局で検討されたい。

(事務局)

承知した。

(2) その他

次回は、来年1月下旬頃、書面会議で開催する予定。

○以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和2年12月24日

氏名 鈴木 和子

氏名 平田 真裕美